

令和7年12月2日

安中市合併20周年事業・第49回県民芸術祭参加事業 古典の日制定記念「人形芝居公演」

公益財団法人群馬県教育文化事業団は、地域の伝統芸能を通して古典に親しみ、伝統文化への意識高揚を図るため、県内で活躍する人形芝居に特化した公演を平成26年度から開催しています。



尻高人形錦松会（高山村）



八城人形浄瑠璃城若座（安中市）

今年度は、安中市合併20周年を記念し、地元の八城人形浄瑠璃城若座を迎え、安中市文化センターでの公演を行うことになりました。皆さんのご来場をお待ちしています。

1. 日 時 12月20日(土) 開演:午後1時(開場:午後0時30分)
2. 会 場 安中市文化センター(安中市安中三丁目9-63)
3. 内 容 第一部 川上 晃 氏(群馬大学名誉教授)
演題「群馬の人形芝居の魅力」
第二部 尻高人形錦松会(高山村)
演目「生写朝顔話 宿屋より 大井川の段」
第三部 八城人形浄瑠璃城若座(安中市)
ワークショップ(人形の仕組み・操作)
演目「絵本太功記 十段目 尼ヶ崎の段」
4. 入場料 無料
5. 定 員 先着400名(予約優先)
6. 申 込 電話、または右記二次元コードからお申込みください。
7. その他の 詳細は、別紙チラシをご参照ください。



【問い合わせ】

公益財団法人群馬県教育文化事業団 文化課
TEL. 027-224-3960



令和7年度文化庁文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)



安中市合併20周年記念事業

第49回県民芸術祭参加事業

古典の日制定記念

人形芝居公演

令和7年

12月20日(土)

13時開演(12時30分開場)

安中市文化センター

定員 先着400名(予約優先)

入場無料

第一部

13:00

川上 晃(群馬大学名誉教授)
演題「群馬の人形芝居の魅力」

第二部

13:30

尻高人形錦松会(高山村)
演目「生写朝顔話 宿屋より 大井川の段」

第三部

14:20

八城人形淨瑠璃城若座(安中市)
ワークショップ(人形の仕組み・操作)
演目「絵本太功記 十段目 尼ヶ崎の段」



八城人形



尻高人形

申込方法

応募フォームまたは電話

受付期間

10月1日(水)～12月18日(木)

お申込は
こちら



問合せ

公益財団法人群馬県教育文化事業団 文化課

電話 027-224-3960 FAX 027-221-4082

bunkaka@gunmabunkazigydan.or.jp

主催◆群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会(実施:公益財団法人群馬県教育文化事業団)

協力◆NPO法人ぐんま郷土芸能助っ人塾

後援◆群馬県、群馬県教育委員会、安中市、安中市教育委員会、高山村教育委員会、ぐんま人形芝居連絡協議会

上毛新聞社、NHK前橋放送局、群馬テレビ株式会社、FM GUNMA、第49回県民芸術祭運営委員会

*都合により内容を変更する場合があります。詳細はお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

事業団HP



古典の日制定記念 人形芝居公演

人形芝居は、「太夫」と呼ばれる語り手、「三味線」の演奏、そして「人形遣い」が操る人形、この三つが一体となって物語を表現する日本を代表する伝統芸能です。人形芝居には、一体の人形を一人で操る「一人遣い」と三人で操る「三人遣い」があり、県内には五座の人形芝居が活動しています。

尻高人形錦松会(高山村)

明治の初期に、名古屋の豊松流四代目の豊松傳三が尻高村の人に淨瑠璃人形を披露し、直接伝授したことが始まりです。一人遣いでありますながら、三人で操作する文楽人形に匹敵する動きをする人形として有名です。昭和53年(1978)に国選択無形民俗文化財、昭和58年(1983)に県重要無形民俗文化財に指定されました。

上演目「生写朝顔話 宿屋より 大井川の段」

恋人の宮城阿曾次郎を尋ね求める深雪は盲目の旅芸人。今日も島田の宿屋で二人の客を前に筝を弾き、問われるままに身の上話をして涙を流していた。客の次郎左衛門こと宮城阿曾次郎は、深雪を帰した後、深雪にと、お金と扇と目薬を宿の亭主に託した。盲目の深雪を恋人と認めつつも、同行の岩代の手前、言い出せなかったのだ。亭主に呼ばれて深雪が戻ってきた時、次郎左衛門は出立した後だった。扇の書付からその人こそかつて別れた恋人の阿曾次郎と知った深雪は不自由な体で後を追う。大井川まで来たが出水で川止め、悔しさのあまり深雪は天を恨み泣き崩れるのであった。



八城人形淨瑠璃城若座(安中市)

今から約300年前に、小幡藩の圧政に苦しむ村を救った8人の名主の恩を忘れないようにと「八塔石紅地蔵(はつとうせきべにじぞう)」を建立し、この地蔵を供養するため奉納用の人形を購入し、演じたことが始まりです。文楽の流れをくむ三人遣いの人形で、ひとたび操作が始まると、あたかも生きているかのごとく豊かな情感が表現されます。平成10年に松井田町(安中市)の重要無形文化財に指定され、現在も安中市松井田町を中心に活動を続けています。

上演目「絵本太功記 十段目 尼ヶ崎の段」

我が子・武智光秀の謀反を許せない母・皐月が暮らす尼ヶ崎の閑居に、光秀の妻・操が息子・十次郎の許嫁の初菊と訪れる。十次郎も出陣のあいさつにやって来て、初菊と祝言を挙げて出陣する。折から旅僧に扮した真柴久吉が一夜の宿を求めて来るが、物陰には久吉の正体を見破った光秀がいた。光秀は風呂に入ろうとする久吉を竹槍で突くが、刺されたのは母の皐月であった。皐月はわざと光秀の手にかかったのである。程なく周囲は敵に囲まれ、久吉と光秀は天王山での勝負を約束する。



古典の日

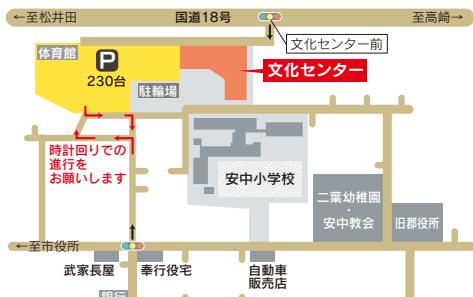
国民が広く古典の意義を再認識し、古典に親しむ機会を増やそうと平成24年に古典の日(11月1日)が制定されました。群馬県教育文化事業団では、地域の伝統芸能を通して古典に親しみ、伝統文化への意識高揚を図るために、県内で活躍する人形芝居に特化した公演を平成26年度から開催しています。

昨年度の様子を
YouTubeで公開中



・ 安中市文化センターご案内 ・

安中市安中三丁目9-63 TEL: 027-381-0586



信越本線「安中駅」から徒歩約25分

高崎ICから約15km(約32分) / 松井田妙義ICから約13km(約25分)